

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 栄福)

事業所番号	0690700299		
法人名	株式会社 ライフネット		
事業所名	グループホームいろはの里		
所在地	山形県鶴岡市下山添字中通39-1		
自己評価作成日	令和 2 年 10 月 25 日	開設年月日	平成 29 年 4 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で、利用者様一人ひとりのペースに合わせた介護の提供を心掛けています。自分らしく最良の生活が送れるよう、一人ひとりの思いや気持ちに寄り添い、安心した生活が送れるように支えてまいります。季節ごとの行事やイベントをできる限り多く実施し、楽しく活気のある生活であるように援助しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の理念を実践するため毎年職員が話し合い施設目標を作り、職員各々が施設目標達成のための目標を作り、半期ごとに自己評価することで理念の実践と共有につなげている。前回の目標達成計画に従い、出来ることや可能性を見つけ出し理念に掲げる、「その人らしい生活を支える」ケアに取り組んでいる。医療機関との連携による、終末期への対応も経験され、協力医の月二回の往診と看護師による家族あての毎月の往診結果報告書の送付など、家族の医療に対する安心につながっている。身体拘束や接遇に関する研修では、職員が普段のケアを振り返り自己評価を行い、管理者等が指導し、足元を見つめながら着実に次のステージへ進めている。今年はコロナ禍で面会や外出が規制されているが、職員は利用者の笑顔を引き出し穏やかな生活が送れるよう、創意工夫を凝らしながらこの苦境を乗り越える努力をしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	令和 2 年 11 月 18 日	評価結果決定日	令和 2 年 12 月 1 日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに理念、施設目標、ユニット目標を掲示している。目標に基づき利用者様の情報共有しながら実践できるように努めています。	事業所の理念を実践するため毎年職員が話し合い施設目標とユニット目標を見直している。施設目標を基に職員各々が普段のケアを振り返り目標を作りその達成状況を半期ごとに自己評価することで理念の実践と共有につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の花であるサルビアの苗を頂き敷地内に植樹したり、施設地付近内外の一斉草刈りの協力体制等、常に地域の方々との交流を大事にしています。	例年では事業所の夏祭りに地域の方の招待もあったが、今年は感染症対策もあり、活動は縮小している。その中でも清掃等地域の役割や文化祭への出展など変わらぬ交流を大切にしている。楯引地区の事業者による、高齢者介護に関する啓蒙活動にも参加し、地域の中で社会資源としての役割にも努力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の文化祭への作品の出品、地区の奉仕作業活動への参加を積極的に行い地域の方々との理解を深められるように努力している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催しその際に意見交換や要望を拝聴し、サービスの向上に努めている。今年度は感染予防の為、会議等の中止を余儀なくされたこともあったが都度文書にて、施設の状況報告を実施している。	感染症対策もあり文書でのやり取りとなっているが、8月には対面での会議を再開した。会議では利用者の状況や事業所の取組等が説明されている。身体拘束適正化のための取組みや感染症対策について報告され意見等いただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議での意見交換や「楯引地区高齢者福祉関係事業所情報交換会」での情報交換を行いながら協力関係を築くようにしています。制度上の問題等は市町村の担当者より協力していただき問題解決に努めています。	利用者にかかる問題や制度上の不明点等は直接窓口と連携し問題解決に向け努力している。楯引地区高齢者福祉関係事業所情報交換会では地域の認知症カフェ事業や地域の高齢福祉の問題等へ連携し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>今日現在、夜間帯以外の施設や身体拘束はしておりません。身体拘束廃止委員会を中心に、定期的に禁止行為の確認や、不適切な行為がないかを確認している。テラスを開放し、見守りが必要な利用者様には安全を確保しながら自由に外気浴ができるようにしています。</p>	<p>身体拘束廃止に向けた指針や、研修、適正化委員会を組織し身体拘束をしないケアに努力している。委員会は3か月ごと開催し、職員に身体拘束についてアンケートを行い、普段のケアを振り返り不適切な行為のないよう努めている。危険につながる行為を引き起こす方には、その原因や兆候を把握し、職員間で連携しながら見守り、安全を確保することで玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部研修や、施設内研修にて虐待について学ぶ機会を持っている。日々の対応に問題がないか、職員間でも話し合い、意識や知識を高め防止に努めている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部研修に参加した職員による研修報告の回覧にて学ぶようにしている。対応が必要な利用者がないか、ケア会議等での話し合いを行っている。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>施設見学を事前にしていただき、疑問や不安に思われていることを説明し納得、同意を得た上で契約を行っている。利用者様の生活状況や心配に思っている事柄についても、不安要素を解決できるように話し合いを行っています。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>窓口に意見箱を設置しご家族様からの意見や要望をくみ取れるような工夫をしている。また、面会時や電話にてご家族様の要望や苦情を傾聴し、その際は職員間で事柄を検討、改善に努めている。</p>	<p>毎月ご家族に利用者の近況や看護師による往診結果等の報告が行われ、信頼関係の構築に役立っている。電話や面会時には積極的に話しかけ意見等いただけるよう取り組んでいる。</p>		
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月スタッフ会議を開催し、意見や提案を話しあうようにしている。個人面談の希望があれば、定期的に面談を行い職員の意見等を聞き反映できるように努めている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や、勉強会、研修会への参加奨励を行い向上心を持って働けるように職場環境の整備に努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	上半期、下半期に職員が個々に目標を設定し達成に向けて管理指導を行っている。外部の研修会や資格取得の為の研修にも、希望を考慮しスキルアップ向上の支援を行っている。	職員各々が目標を立て、半期ごとに自己評価を行い、管理者等が評価指導することで、力量の把握や働きながらトレーニングする機会となっている。毎月会議では、事業所の時宜に応じた学ぶ機会を設けている。身体拘束や接遇の研修では、職員全員のアンケートを取り普段のケアを振り返り、足元を確認しながら次に向けたステップアップができるよう工夫されている。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修会や、交流会に参加する機会を設け、意見や情報交換を行いサービスの質の向上に努めています。	楡引地区高齢者福祉関係事業所情報交換会を通して、協同した事業や情報交換が行われ、サービスの向上に活かしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との会話を大切に、会話や表情等から困っていること、不安なことをくみ取り不安要素を取り除けるように努力をしている。ご本人からの聞き取りが難しい場合は家族からの情報を聞き安心を提供できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が不安に思っていること、要望等をしっかりと傾聴し、個々にあった対応の提供を行えるように納得されるまで話し合いをし信頼関係を構築できるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用の相談の段階より、早急に対応しなければならないことと、時間をかけて対応する事柄を見極めて支援できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のできることを見極めて、一緒に作業を行ったり、レクリエーションや食事を一緒に食べるなどコミュニケーションを取りながら良い関係を築けるように努力している。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ご家族様に利用者様の近況や思いを記載したお手紙を送り本人との良い関係を継続していけるようこころがけ、季節ごとの衣類の入れ替え等、ご家族様の協力を得て生活援助を行っています。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、感染予防の観点から外出の機会や知人との面会等も自粛中ではあるが、施設内でも馴染みの関係ができてきており良い関係性が保てるように援助している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないようなテーブル配置や、必要時には席替えを行っている。また、レクリエーション等を通して交流や気分転換しながら利用者同士の関わりを支援し良好な関係を保てるように努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した後も、ご家族からの相談があれば受けています。入院や、他施設に転移される際は情報提供を行っています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のチェック用紙を使用し、利用者様、ご家族が何を望んでいるかを考えながら援助を行っています。定期的にモニタリングを行うとともに、毎月のケア会議にて個々の意向の把握に努めています。	センター方式アセスメントシートを活用し、意向の把握に努めている。前回の目標達成計画から利用者とのかかわりの中で会話や表情など気づきを大切に、ユニット会議で話し合い、本人本位の意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを通して昔の生活歴を知るようにしており、日頃のケアに活かせるよう考慮している。入所後も様子観察を継続し、本人にあった声掛けや対応を行うように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の介護記録に毎日の様子や言動を記録し、状態の変化や現状の把握を職員間で把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にあセスメントとモニタリングを実施している。利用者様を取り巻く状況が変わるごとに、センター方式で本人やご家族様の意向を確認しケア会議等で話し合い検討し介護計画に反映しています。	3か月ごとモニタリングを行い、計画の評価をし、6か月ごと家族の意見を踏まえ会議で職員の意見を加えながら計画の見直しが行われている。前回の目標達成計画に従い利用者の好きなことや出来ることを見つけ出し、計画に反映させ、利用者本位の現状に合わせた計画の作成に努力している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を毎日記録することで、現状を把握し、その記録を職員間で共有し、介護計画の見直しにも繋げている。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	櫛引の花、サルビアなど花壇に植え見ていただいたり、地域の文化祭等、行事の参加を通して地域資源に関わっていけるように心がけています。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医より、定期的に往診対応を行っております。情報提供を密に行い、異常の早期発見に努め、緊急性を要する場合には施設で対応を行っております。	かかりつけ医は本人・家族の希望する医療機関としているが往診可能な医師に代わる利用者が多い。月2回の往診があり、結果は看護師が状況報告書を毎月家族あて送付しており、家族の医療に対する安心につながっている。通院の場合は、原則家族対応としているが、受診結果については相互に連絡を取り合い情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>協力医の看護師や、施設の担当看護師との連携を取り、対応の方法や助言を得ています。必要に応じて、受診や往診対応を行っています。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>ご家族様、主治医と密に連絡をとり理解して頂いた上で状況にあった対応をしています。入退院時は主治医からの情報や施設での経過の情報提供をおこない連携が取れるように努めています。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時にご家族様の希望を伺い、施設で出来る対応を伝えるようにしています。また、利用者様の身体状況に変化がみられた時点で、主治医、ご家族様と予想される今後についての話し合いを行っている。</p>	<p>重度化や見取りに関する指針や同意書が整備され、早い段階から事業所のできること等が説明され、状況の変化に応じて医療関係者を交えながら繰り返しの話し合いがなされている。事業所で最期を迎えた経験もあり重度化や終末期に向け取り組んでいる。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>施設内研修にて定期的に救命処置等の研修を行い、手順の確認を再確認し、実践力を身につけている。</p>			
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災訓練や、避難訓練を実施し消防署からの訓練指導をうけて定期的な訓練を行っています。</p>	<p>毎年2回避難訓練を行っている。夜間対応や招集訓練も行われている。例年は運営推進委員である自治会長の参加見学も実施されていた。風水害の避難対応については新たに防災計画も作成されている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の思いや気持ちに寄り添い、本人、周囲の人も不快を感じないような声掛けを心がけている。施設内研修等で接遇や対応、声のかけ方の見直しを行い不適切なところがないか、意識改革に努めている。	前回の目標達成計画に従い接遇や対応、声掛けの見直しを行っている。研修では職員が普段のケアを振り返り、接遇に関する自己評価を行っている。ユニットリーダーを中心に不適切な対応等無いようにお互いに注意しあっている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時々々の場面にて、本人の意向を確認し希望に沿った行いができるように援助している。思いや希望が遠慮なく言えるような環境づくりにも心がけ、働きかけている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全ての利用者様を一つの流れに合わせるようなことはせず、その日の個々の体調や状態に合わせて、希望に沿った対応ができるように心がけている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる方には毎朝、洗面台の前で身だしなみを整えてもらい、着替え用の服を自分で選んでいただいたりしている。理容の希望があれば訪問理容を設定する等支援している。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事を企画し、利用者様と一緒におやつ作りをして食べたり、楽しみながら食事できるように支援している。毎食時時、盛り付けのお手伝いや食器拭きを手伝っていただいている。	配食のサービスではあるが、配膳や下膳等利用者にもかかわってもらい、家庭的な食事になるよう努めている。自家菜園から収穫した野菜や芋類を利用したおやつ作りでは、利用者も調理に加わっていただき、作る楽しみを創出している。季節の行事や誕生会など食事にアクセントをつけ、楽しみなものになるよう工夫している。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量と1日の水分摂取量を記録し個々の状態を把握できるように努めている。利用者様の状態に合わせた食事形態で食事提供し、利用者様が安心して食べられるように援助しています。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの援助をしている。義歯を使用している利用者様の分は、夜間帯で消毒し清潔を保つようにしている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表に記載し、排泄パターンの把握に努めています。その上で、個人の排泄パターンに見合った排泄援助を行っています。	排泄チェックシートを活用し適時の誘導によりトイレでの排泄に向け支援している。出来るだけおむつやパットの使用にも一人一人の現状に応じた対応に努力している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて、毎日の状況を把握しながら協力医の指導のもと排便コントロールに努めている。また、起床時に水分を摂り腸の働きを活発に促すようにしたり寒天ゼリーや水分を多めに摂っていたく工夫をしている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は決まっているが、利用者様のその日の体調や希望を考慮して、曜日や時間を変更できるように臨機応変に対応しています。誕生日や行事に合わせて入浴剤を使用する等、楽しみなものになるよう工夫している。	利用者の希望に応じた入浴の支援に努めている。入浴を好まない方には誘導の方法を工夫したり、職員を変更したり工夫して清潔が保たれるよう支援している。機械浴の設置もあり、身体状況に応じて安全に入浴できる。入浴剤等を工夫し入浴が楽しみなものになるよう努力している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様個々の生活習慣やその時の状況に合わせて個別の対応を心がけています。季節にあった寝具、室温を管理し気持ちよく就寝できるような環境づくりに努めています。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様それぞれの個人ファイルにて既往歴や疾患、内服薬の把握に努めるようにしている。内服薬の変更等があった場合は看護師と連携をとりながら様子観察を行い、服薬介助、飲みこみの確認をダブルチェックしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の利用者様が得意な分野で力を発揮できるように支援しています(家事仕事・畑作業等)季節ごとの行事やレクリエーションを企画し、楽しみながら生き生きとした生活ができるように支援しています。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	感染予防に注意しながら、できる限りの外出支援をしています。散歩を日課にしている利用者様には、職員付き添いにて散歩を実施したり、ベランダでの外気浴や行事食を外で食べる等、気分転換ができるように支援している。	感染症対策もあり外出は少なくなっているが、車中だけのドライブで景色を楽しむ外出など工夫されている。ベランダを活用した行事や散歩、畑仕事など戸外に出かけ、外気に触れる機会も大切にしている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の金銭管理能力に応じて対応している。お金の管理ができる方には本人の希望で使えるように支援しています。(自動販売機・コンビニで買い物)			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があれば、その都度対応している。(自分の携帯電話を持ち、自由に電話を使用している方もいらっしゃいます)			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一番長くいるホールでは、季節を感じてもらえるように、壁画を装飾したり、行事等で撮影した利用書様の写真を貼ったりしている。また、室温や湿度にも配慮し、清潔を心がけ環境整備につとめています。	広い共用空間となっており、壁にはさりげなく利用者の作品や行事の写真が掲示されている。天窓から光が入り込み、落ち着いた色調の家具、ソファが配置され、清掃も行き届き、温度・湿度も管理され、気持ちよく過ごせる環境となっている。トイレは左右対称に配置され、右まひや左まひの方にも使いやすいように設置されている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にテーブルの他にソファも設置し、気の合う利用者様同士ソファに座りくつろいでいただけます。居室やホールの行き来は自由で、ゆったりと過ごせる環境を工夫しています。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様がそれぞれに思い入れのある物を持参され、自宅で過ごしているような安心できる生活空間をつくっている。職員が居室の清掃を行い清潔を保っています。	利用者の使い慣れたものの持ち込みも出来、それぞれが家具の配置や飾りつけが思い思いになされ、毎日の清掃と温度、湿度が管理され、居心地よく過ごせるよう工夫している。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が一人でも危険がなく移動ができるように、施設内の環境整備に努めている。自室の前にそれぞれ花のマークがあり、自分の部屋の目印にするなど自分の部屋がわかるような工夫に努めています。			